

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 ハリケーン被害からの回復、ストライクの終了により拡大(05年10月鉱工業生産)

発表日: 05年11月17日(木)

~ 製造業の拡大ペース加速 ~

(No. UI - 150)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001: seiji@dri.dai-ichi-life.co.jp)

鉱工業生産 (Industrial Production and Capacity Utilization)

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)						設備稼働率	生産能力	
	前月比	前年同月比	製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	製造業 (NAICS)	生産能力	
04/10	+0.7	(+4.7)	+0.9	+0.7	0.3	0.4	+0.9	+3.1	+79.2	+77.8	+0.1
04/11	+0.2	(+3.9)	+0.0	+2.0	+0.2	+0.6	0.0	0.5	+79.3	+77.7	+0.1
04/12	+0.7	(+4.4)	+0.4	+0.5	+2.1	+2.1	+0.4	+0.7	+79.7	+77.9	+0.1
05/01	+0.2	(+4.2)	+0.5	0.5	2.1	+4.5	+0.3	1.2	+79.8	+78.2	+0.1
05/02	+0.4	(+3.7)	+0.6	+1.0	1.2	+1.6	+0.4	+4.4	+80.0	+78.5	+0.1
05/03	0.0	(+4.0)	0.4	0.5	+3.0	+0.0	0.3	3.2	+79.9	+78.1	+0.1
05/04	0.1	(+3.1)	+0.0	+0.1	1.6	+1.7	0.1	1.7	+79.7	+78.0	+0.1
05/05	+0.2	(+2.4)	+0.4	0.7	0.2	+1.9	+0.3	+0.8	+79.8	+78.1	+0.1
05/06	+0.8	(+3.7)	+0.4	+0.9	+5.2	+1.0	+0.2	+2.4	+80.3	+78.2	+0.1
05/07	0.0	(+3.1)	+0.2	1.0	0.1	+2.2	+0.1	2.0	+80.2	+78.2	+0.1
05/08	+0.2	(+3.0)	+0.4	0.7	0.9	+2.9	+0.3	+3.6	+80.2	+78.4	+0.1
05/09	1.5	(+1.7)	0.7	8.6	0.9	+2.2	0.7	+2.3	+78.9	+77.7	+0.1
05/10	+0.9	(+1.9)	+1.5	0.5	1.9	+1.7	+1.5	0.6	+79.5	+78.7	+0.1

(出所) FRB

(注) 数字は前月比、但しカッコ内は前年同月比。

鉱工業生産は前月比 +0.9% と市場予想を小幅下回った

05年10月の鉱工業生産は、ハリケーン被害からの回復、ストライクの終了によって前月比 +0.9% と増加に転じたものの市場予想の同 +1.0% を小幅下回った。公益のマイナス幅が拡大した一方、鉱業の減少幅が縮小し、製造業が増加に転じた。製造業では拡大した業種数が19業種中12業種と9月の14業種から減少したがそれでも拡大に広がりを持っていること、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で +2.8% と9月の +2.4% から加速していることから、生産の拡大基調は徐々に強まっていると判断される。

稼働率は79.5% と大幅に上昇

10月の稼働率は生産能力が前月比 +0.1% 上昇し、生産が同 +0.9% となったため79.5% と市場予想を下回った。他方、製造業の稼働率は78.7% と9月から1.0ポイント上昇した。今後の動向では、メキシコ湾岸一帯の原油やガス、化学、石油生産の回復が進むことで、生産の拡大ペースが加速するとみられる。一方で、稼働率や期待成長率の上昇が続いているため、増産投資の拡大ペース加速が予想されることから、今後生産能力の拡大ペースが速まり稼働率の上昇ペースは抑制されるとみられる。

製造業生産は19業種中12業種で拡大しており広がりを伴っている

業種別では、鉱業はハリケーン「カトリーナ」「リタ」の相次ぐ襲来によってメキシコ湾岸の石油ターミナルが一時閉鎖や稼働が停止し4ヵ月連続の低下となったが、徐々に稼働を開始したため前月比 0.5% とマイナス幅が縮小した。公益は、天然ガスが増加に転じたものの、ハリケーン「ウィルマ」の襲来によるフロリダでの電力供給の停止によって電力の縮小幅が拡大し、全体でも同 1.9% とマイナス幅が拡大した。

製造業は、前月比 +1.5% と上昇に転じた。セクター別にみると、一次金属、一般機械、自動車、家具・同関連製品、アパレル・革、プラスチック・ゴムが減少に転じた。

さらに、木材、食品・飲料・タバコ、印刷の拡大ペースが鈍化した。一方、繊維、紙、化学、ストライキの終了した航空宇宙・その他輸送機器が前月比+20.1%と大幅な増加に転じた。加えて、非鉄製品、加工金属、コンピューター・電子機器、電気機械、その他耐久財の拡大ペースが加速した。また、石油・石炭製品のマイナス幅が縮小した。

自動車関連の生産は、自動車部品が前月比+0.1%とプラスを維持したものの完成車が同1.4%となったため、同0.6%と3ヵ月ぶりの減少となった。10月に従業員割引の一般購入者への適用を終了したため、自動車販売が減少した影響がでた。しかし、自動車部門では米自動車メーカーが6、7、8、9月に従業員割引の一般購入者への適用を実施したことで、在庫が大幅に減少している。さらに、11月入り後の販促強化による販売回復が見込まれるため生産は拡大に転じる可能性が高い。

他方、堅調が持続しているハイテク関連は、コンピューターの堅調が続くもと、通信機器が加速したが、半導体が減速したことにより同+1.7% (9月同+3.2%)と拡大ペースが鈍化した。もっとも、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では、10月に+30.3% (9月同+27.6%)と加速しており好調が持続している。

最終財、原材料共に増加した

需要段階・財別の動向をみると、最終財・非産業財(全体の57.78%)では、消費財が前月比0.3%と減少した。一方、情報機器や産業機器の増加ペースが加速、輸送機械が同+36.8と大幅な増加となり企業設備は増加に転じた。また、国防・宇宙関連が同+2.3%、部品財が同+0.2%と拡大に転じた。さらに、建設財の増加ペースが加速したため最終財・非産業財全体は前月比+1.2% (9月同0.7%)と拡大に転じた。

原材料財(全体の42.22%)では、エネルギー向けはマイナス幅が縮小した。また、非エネルギー向けでは、耐久財向けが前月比+0.9%と鈍化したものの、非耐久財向けがプラスに転じたため、全体で同+1.2%と増加に転じた。このため、原材料財は前月比+0.6%と増加に転じた。

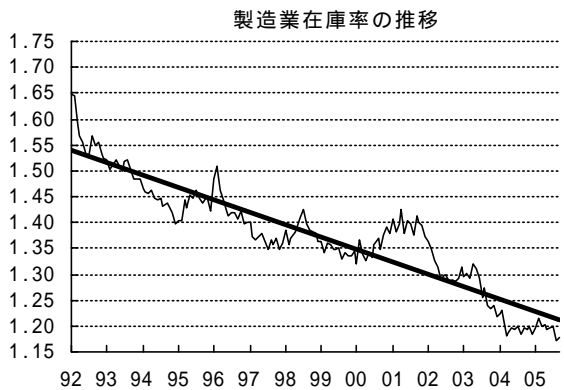
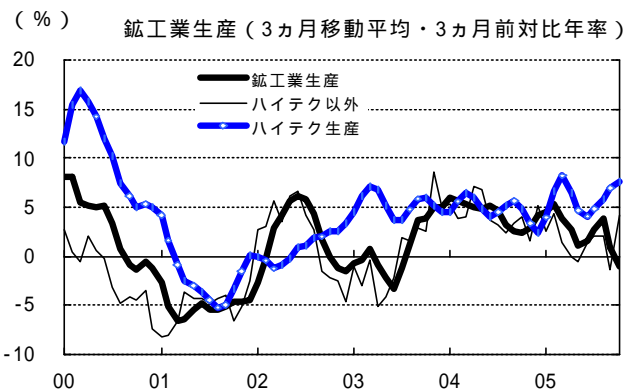
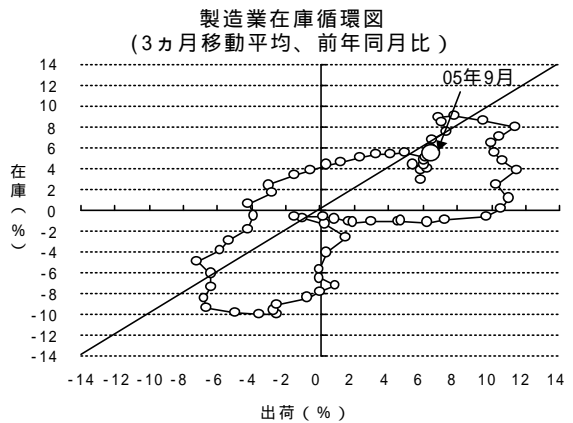
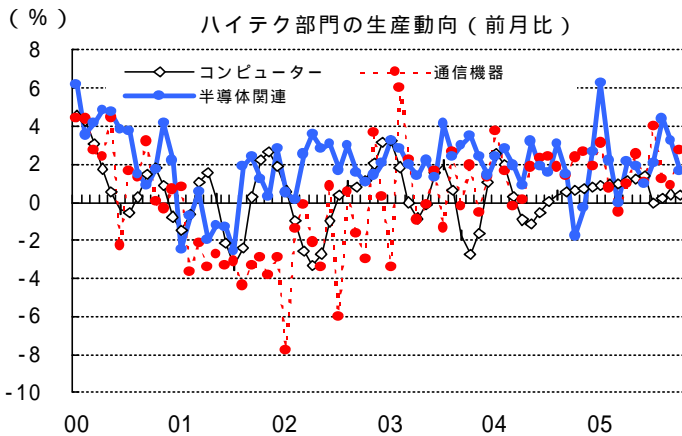
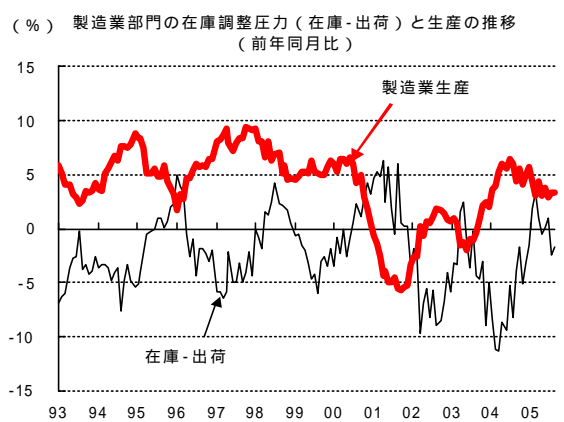
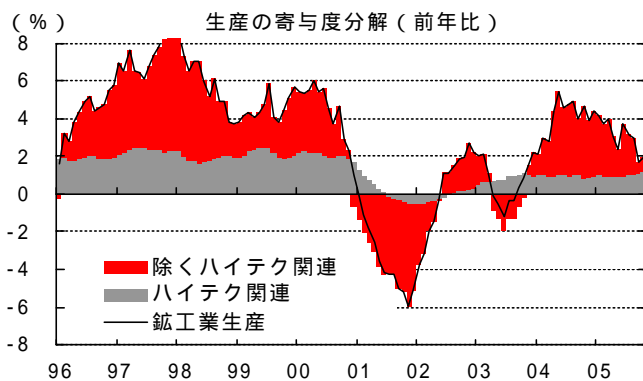
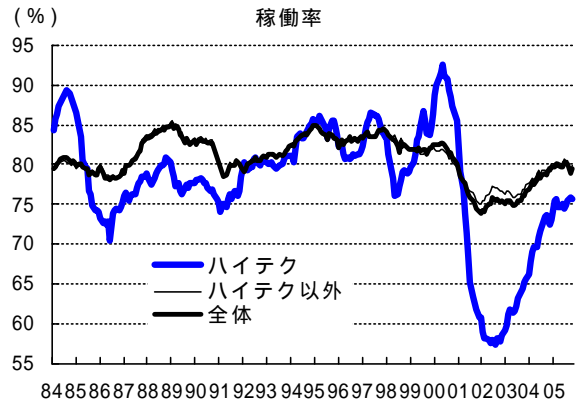
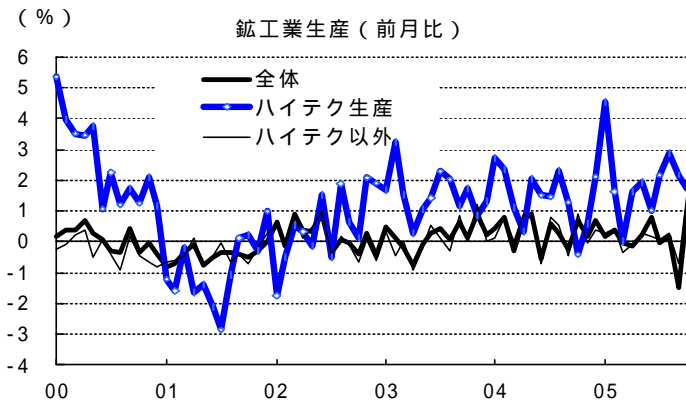
10~12月期も製造業生産の堅調が見込まれる

今後の動向では、メキシコ湾岸一帯の原油やガス、化学、石油の生産での回復が進むことで、生産の拡大ペースが加速するとみられる。加えて、自動車部門では販促によって在庫が大幅に減少し在庫不足の状態になっているなか、新型モデルの生産が行われることで自動車生産は拡大が続くと予想される。さらに、ハイテク部門では世界的なパソコン需要や米国内での通信機器需要が堅調さを維持するとみられ、生産が好調を保つと見込まれる。これらのことを勘案すると、11月の製造業生産は堅調さを維持する可能性が高い。

最終需要の動向では、個人消費は雇用・所得の拡大を背景に拡大基調が持続するとみられる。ただし、7~9月期に自動車販売が急増した反動によって10~12月期の個人消費は前期比年率で+1%台に一時的に鈍化すると予想される。一方、設備投資はこれまでの堅調な成長による期待成長率の高まり、キャッシュフローの拡大を背景に、好調を維持すると見込まれる。このような最終需要のもと、7~9月期に減少した在庫投資は、10~12月期に拡大に転じると予想される。外需では、輸出は海外景気の拡大ペース加速が期待でき10~12月期以降増加ペースが加速しよう。輸入は国内需要の堅調を背景に高い伸びが持続するとみられる。

以上のことから、年末にかけて潜在成長率程度での成長が予想される。このような中、

製造業生産は、自動車部門に加えて世界的なハイテク部門の在庫積み増しを背景に10～12月期も堅調さを維持すると予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。